

## 江東区立豊洲幼稚園（2年目）

【園長】 福原 良子  
 【園児数】 160名  
 【学級数】 7学級



次の取組へ

### 【課題・改善】

- ・運動遊びは、「できる」「できない」が目に見えやすく、苦手な幼児が積極的に取り組めるようになることが課題。
- ⇒「かっこいい!」「楽しそう!」「私もやってみたい!」と思える機会の創出
- ・バスケットや野球などが得意な保護者の力を活用し、「かっこよく」「楽しそうに」取り組む姿を見て、憧れの気持ちから、「やってみたい」気持ちを高めるための『ワクワクバスケ』などの実践。
- ・「できる」か「できない」かではなく、「楽しい」をねらいとして行う。

### 目標

- ・好きな遊びで自ら体を動かす遊びに取り組む幼児（90%以上）
- ・難しいことや思い通りにいかないことにも、あきらめずに取り組もうとする幼児（90%以上）

### 【成果】

- 「思わずやってみたくなる」環境の見直し
  - ・すぐに取り組める場所に設置したことで、繰り返し取り組むことにより、動きの機敏さはもちろん、友達との関わりが増え、その結果トラブルを自分たちで解決する力にもつながった。また、保護者アンケートの「我が子は自ら体を動かす遊びに取り組む」の項目で、R4年度から17ポイント上がり、98パーセントの幼児が自ら体を動かす遊びに取り組むようになった。
- 保護者を巻き込んだ取組
  - ・普段親子での触れ合いが少ない保護者も、我が子や他の親子と一緒に楽しんで体を動かすことができた。
  - ・親子での遊び方を知り、家庭でも取り組むきっかけとなった。

### 【実態・課題】

- ・自ら環境に関わって取り組み、体を動かす楽しさを感じられる幼児が増えた。一方、動きのぎこちなさや、うまくいかなかったり疲れしたりして、すぐにやめてしまう姿も、まだ一定数見られる。
- ⇒「思わずやってみたくなる」環境の見直し
  - ・よりイメージをもてるイラストや音楽、雰囲気などの活用
  - ・自分で高さや距離などを選べる環境
- ⇒保護者を巻き込んだ取組
  - ・「げんきもりもりカード」を活用し、徒歩で通園する機会の創出

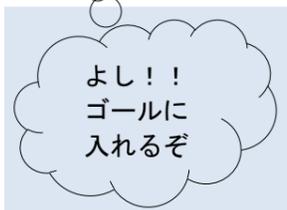
### 【取組】

- 「思わずやってみたくなる」環境の見直し
  - ・幼児の興味や社会的に流行しているものを取り入れ、「やりたい」気持ちを高める環境（場・道具・掲示）
  - ・少しの時間や、活動場所の移動の際に、「つい」体を動かしたくなる環境
- 保護者を巻き込んだ取組
  - ・「げんきもりもりカード」の内容のバージョンアップ（時期ごとにより楽しめる内容の見直し）
  - ・講師を招き、親子遠足での「レッツ！親子でたいそう」として、家庭でも楽しく取り組める親子体操の実施

### 【取組（詳細）】

#### ○ 「思わずやってみたくなる」環境の見直し

- ＜今、10対2だよ＞（4歳児：バスケット）
  - ・バスケットのワールドカップ開催後、子どもたちがすぐに気付き、取り組める場所に手作りゴールを用意すると、繰り返し取り組む。より、関心をもてるよう、ワールドカップの試合結果を掲示したり、バスケットボールに似たボールやゼッケンを用意したことで、夢中になって取り組む。
  - 毎日友達と誘い合って遊び始める。親子で試合を観に行き、そこで刺激を受け、試合のトーナメント表を作るなど、より意欲を高めている。



#### ＜もっとやりたい!!＞

#### （5歳児：ケンケンパ）

- ・体を動かすことに苦手意識をもっていた幼児が、保育室の目の前にケンケンパの線を貼ったことで、自分なりのペースで繰り返し取り組むようになる。満足できるまで取り組める時間を確保するとともに、「おもしろいやりかただね」「たのしそうだね」「さっきよりもはやくなったね」など、『頑張っているところを認めてもらえた』と感じられるよう、価値づける言葉を掛けることで、「またやりたい」という意欲につながっている。



#### ○ 保護者を巻き込んだ取組

- ＜今日は「げんきもりもりカード」を持って、「歩こうデー」＞
  - ・通園範囲が広いため、自転車で登降園する幼児が多かったため、歩くことを親子で楽しめる取組として、「げんきもりもりカード」を活用した「歩こうデー」を月1回設定した。毎月内容の変わるカードを持って親子で歩くことは、子どもたちにとって楽しい時間となり、保護者にとっては、親子で歩く楽しさや必要性を思い出す機会となっている。

